

「アジアのノーベル賞」に服部氏

【マニラ共同】フィリピンのラモン・マグサイサイ賞財団は31日、「アジアのノーベル賞」といわれるマグサイサイ賞を、ベトナムを中心に東南アジアで失明予防に尽力してきた眼科医の服部匡志氏（58）ら4人に授与すると発表した。

服部氏は「ベトナムの赤ひげ先生」



服部匡志氏（ラモン・マグサイサイ賞財団提供）
眼科医の服部匡志氏

とも呼ばれる。日差しが強い東南アジアでは白内障など眼病リスクが大きく、多くの貧困層に無償で治療してきたことが評価された。

服部氏は新型コロナウイルス禍で「活動が難しくても何とか続けてきた。今は（政変が起きた）ミャンマーは難しい状況だが、モンゴルなどに活動の場を広げたい」とコメントを寄せた。

京のNPOが支援 “ベトナムの赤ひげ眼科医”

服部氏を支援するNPO「アジア失明予防の会」（京都市）によると、2002年からベトナムやラオス、ミャンマーなどで診療し、これまで約2万人の治療に当たってきたという。服部氏はこれまで年間4〜6カ月、現地に滞在。日本に帰国した際に各地で非常勤の勤務医として働き、ベトナムでの治療費などの活動費を捻出してきた。失明予防の会の石橋通事務局長は、東南アジアでは働き盛りで失明する患者も多く「服部医師は自らの報酬を顧みず、現地で活動に尽くしてきた」と述べた。

同賞はアジアで大きな社会貢献をした個人・団体に贈られる。今年は服部氏のほか、カンボジアの精神科医やフィリピンの小児科医らに授与。日本人ではこれまで、アフガニスタンで国民生活の向上に取り組む、19年に現地で殺害された「ペシャワール会」（福岡市）の医師中村哲氏らが受賞している。

令和4年9月1日 京都新聞